

《写真アルバム》 梅雨の合間 須磨アルプス 岩稜 馬の背を歩く 2015.6.10.



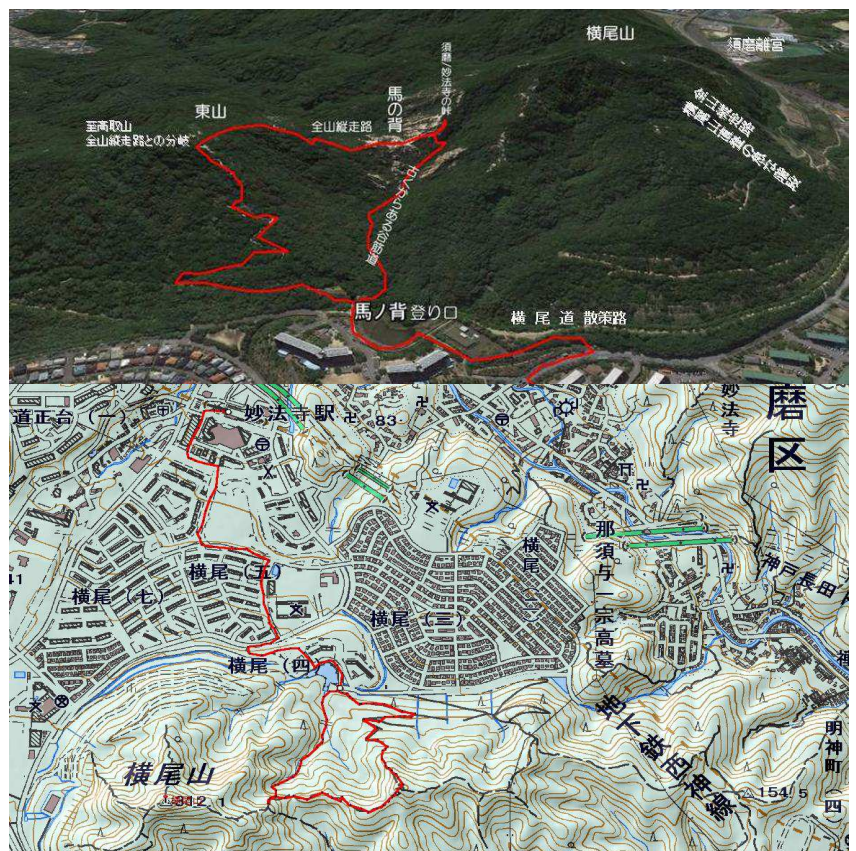
《 須磨アルプス 馬の背Walk 》

妙法寺駅 → 東山登山口 → 法寺/須磨馬の背乗越古道 → 横尾山東の鞍部・全山縦走路 → 馬の背
→ 東山山頂 → 東山登山口 → 横尾山山裾 横尾道散策路 → 須磨離宮

私の住む住宅地 神戸 須磨の若草町からいつも正面に眺める須磨アルプス 馬の背。六甲全山縦走路の一部で、岩肌をむき出しに、荒々しい岩肌まるだしで、両側が切れ落ちた狭い稜線が続く。

六甲全山縦走路きっての名勝で、西の横尾山から東山へと岩肌むき出しの狭い稜線尾根が続くが、ちょっと気を付けて登れば、この神戸で手軽にアルプス気分の稜線歩きが楽しめる、四季を問わずに六甲縦走のハイカーや地元の人で毎日登山の人でにぎわう山である。

私も何度も歩いた縦走路ですが、歳と共に、狭い馬の背の痩せ尾根と前後に続く急な岩壁や岩稜を直登の梯子や階段で上り下りするのが嫌で、最近は縦走路歩きを敬遠。比較的気楽に歩ける横尾山の西の旗振り山への縦走路を歩いたり、東山から縦走路に出ず、そのまま南の板宿へ下ったりである。



5 月末新緑の森に包まれた馬の背の東側にある東山を歩いて、頂上から久しぶりにこの荒々しい岩稜「馬の背」の景観をゆっくりと眺め、やっぱりこの岩稜の真っただ中に立ちたいなあ・・・と。また、馬の背に行くなら、ぜひ、長いこと歩いていない妙法寺から真っ直ぐ南へ谷をつめて、馬の背とクロスして須磨へ下る馬の背越えの古道から行こうと。

今はよくわかりませんが、道標もないが、谷筋をまっすぐつめれば、一番短時間で横尾山の東の鞍部に出て、馬の背の縦走路に出られる。視界の効かぬ雑木林の谷筋に踏み跡が細々と続き、この谷筋を詰めれば問題はないのですが、踏み跡を間違えて尾根筋へ出ると 細い痩せ尾根の崖となって苦勞する。土地勘があれば、問題のないルートであるが、稜線まで誰にも出会うことのないルート。踏み跡はちゃんとあり、最近は結構地元の人が歩いていると最近聞いて、是非歩いてみたいと。

6月10日 梅雨の晴れ間の午後 思い立って 須磨アルプス 馬の背へ。

今日は かつて何度か歩いた妙法寺から谷筋を直登で馬の背へ出られる古道の乗越ルート。

道は残っていると聞いたが、どうだろうか・・・ 気になるところですが、無理して崖を歩かねば大丈夫。

久しぶりの馬の背の岩稜の稜線歩き。 ちょっぴりですが、アルペン気分になって 爽快感一杯でかえってきました。

1. 東山の山裾の東山登山口の横から真っ直ぐ南へ 谷筋を横尾山と馬の背の鞍部へ

北の妙法寺から谷筋を真っ直ぐ南へつめ 須磨アルプスの稜線縦走路とクロスする

妙法寺から須磨へ 馬の背を乗越す古い道がある

森の中の谷筋を真っ直ぐに馬の背の乗越まで登ってゆくルートで、以前には何度も通ったことがあるが、ここ5年は通ったことなし。どうなっているか・・・

妙法寺駅から南へ、須磨アルプスの連山の山極に向かって 横尾の団地をぬけると山極の横尾道。この道を東へ池の傍を回り込んだところに、六甲全山縦走路の案内板のある小さな広場があり、ここが登山口。通常はここから山腹につけられたつづら折れの散策路を登って東山の頂上で稜線の縦走路に出会う。東山と西の横尾山をつなぐ岩稜の痩せ尾根稜線縦走路が「馬の背」で 東山は馬の背の東端である。

また、登山口の広場の西側を樹木に覆われた小さな谷川があり、この谷川を上へ上り詰めれば、岩稜の横尾山稜線を東に下ってきた鞍部に出られ、鞍部を乗越してそのまま南に下れば須磨へ出られ、昔からある古道である。

また、この横尾山の鞍部から東へ六甲全山縦走路をとれば、岩稜の痩せ尾根が続く馬の背である。

午後1時過ぎ 池の傍を回り込み、広場に入る階段を登ると正面が谷筋へ入っていく道。標識もなにもなく、緑に包まれた森の中谷筋へ入る道が続き、ここから約30分 全く視界が効かぬ雑木林の中の谷筋を詰める。



馬の背の稜線へ出る須磨アルプス北側 妙法寺入口 2015.6.10

森の中の谷筋を真っ直ぐに馬の背の乗越まで登ってゆくルートで、以前には何度も通ったことがあるが、ここ5年は通ったことなし。どうなっているか・・・



入口からすぐ 谷筋へ階段を下りてゆく 標識は全くないが、しっかりと道筋のよう



小さな谷川に沿って 細い谷筋が流れている。いつも多くの人が歩いているようだが、この谷筋には岩の壁や岩の壁があり、岩の壁が流れている。この谷筋には岩の壁や岩の壁があり、岩の壁が流れている。この谷筋には岩の壁や岩の壁があり、岩の壁が流れている。



小さな谷川に沿って 細い谷筋が流れている。いつも多くの人が歩いているようだが、この谷筋には岩の壁や岩の壁があり、岩の壁が流れている。この谷筋には岩の壁や岩の壁があり、岩の壁が流れている。

横尾山の鞍部へ真っ直ぐ視界の効かぬ雑木林の中 谷筋を踏み跡をたどりながら登る 2015.6.10.

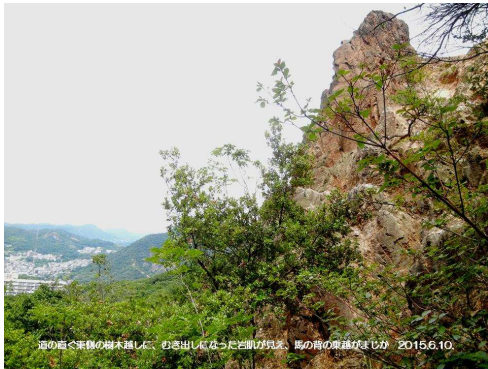
緑に包まれた樹木の上いくつか枝尾根の岩稜が見えだし、ふいに樹木の中を抜けると、視界いっぱい大きな岩壁の前にて、この岩壁の上方に左から右へ鎖が張られている。このそそり立つ鎖場をトラバースし、さらに岩の間を辿りながら少し岩壁を登ると横尾山の鞍部で 稜線縦走路とのクロスポイントに道標があり、その横に出る。右も左もそそり立つ岩稜で鎖・梯子が岩稜に張り付き、道標の縦走の南も北も切れ落ちた谷。ここから東へ さらに岩稜の縦走路を馬の背へ



だいたい登ったところで、ふと横尾山の稜線が顔を出す。2015.6.10. 13:26

2. 横尾山東の鞍部 稜線縦走路とのクロスポイント

右も左も急峻な岩稜 その両側は切れ落ちた谷 荒々しい岩稜を鎖と鉄梯子が張り付いて 縦走路が伸びている



道の奥へ果敢の樹木越しに、おぼろげにうかがう山頂が見え、奥の山の稜線がほら 2015.6.10.



登る正面には、樹木に包まれた崖道の上が開け、もうすぐ上が岩稜の縦走路だと



樹林を抜けると正面に顔面が赤られた岩壁 1229 2015.6.10. この鎖を伝いながら右へトフパスしながら登って乗越・縦走路へ出る

谷筋の樹林の中を抜けると 前方正面一杯に鎖が張り付いた岩壁 この岩壁を登って稜線に出る 2015.6.10.



岩壁の間を抜けると横尾山鞍部の乗越にある全山縦走路標識 2015.6.10. 13:30
左右に馬ノ背の岩稜を伝う鞍鞍が全山縦走路 向こうに須磨へ下る道が見えている



登山口から 約30分で 岩稜の須磨アルプス 六甲全山縦走路に出る 馬の背は右へ縦走路を登ればすぐ



横尾山の鞍部・乗越から眺める六甲全山縦走路・須磨アルプスの稜線
西側正面には、梯子のかかれた岩壁が続く
横尾山の全山縦走路



東側には立ちのぼる岩壁を登って
馬の背へと続く岩稜の全山縦走路



縦走路の東側 馬の背の上から眺めた 横尾山鞍部の峠 2015.6.10.

須磨アルプス 稜線の六甲全山縦走路 横尾山東の鞍部 妙法寺/須磨の古道とのクロス点 2015.6.10.

3. 須磨アルプス 稜線の六甲全山縦走路 馬の背

西六甲 横尾山と東山の間をつなぐ岩稜の稜線縦走路 両側が切れ落ちた痩せ尾根で須磨アルプスの名



馬の背から東へ 馬の背-東山へと続く六甲全山縦走路 背後中央に高取山 2015. 6. 10.



六甲全山縦走路、須磨アルプス 馬の背から横尾山を眺める 2015.6.10.



六甲全山縦走路、須磨アルプス 馬の背から須磨谷を眺める 2015.6.10.

西の横尾山と東の東山を結ぶ岩稜の稜線尾根 須磨アルプス馬の背 2015. 6. 10.



馬の背から西横尾山

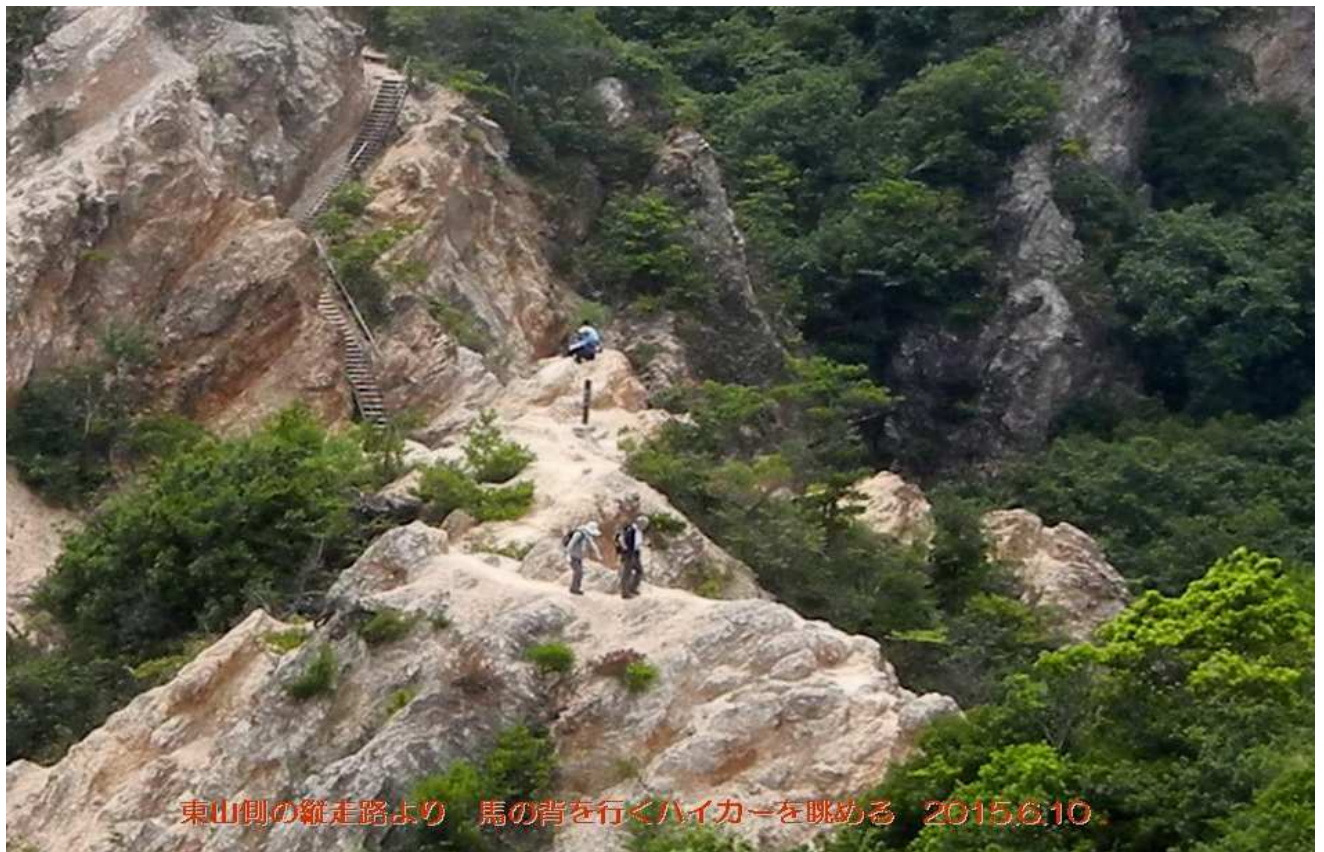


須磨アルプス 馬の背の道標 2015.6.10. 12:35

この道標のある場所は縦走路全体を見渡せる展望台
今登ってきた横尾山鞍部からの縦走路、さらに東へ馬の背の痩せ尾根を経て
東山への縦走路が見渡せる



馬の背から東 東山

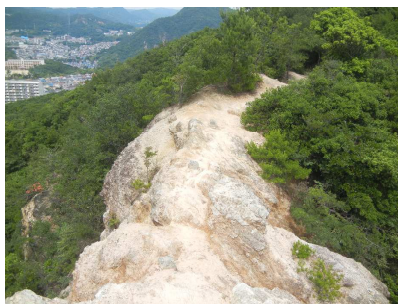


東山側の縦走路より 馬の背を行くハイカーを眺める 2015.6.10

横尾山から馬の背を行くハイカーを眺める 2015. 6. 10.



馬の背の道標より東山へ 馬瀬を行くハイカー 2015. 6. 10.



馬の背の縦走路 一番狭い部分

2015. 6. 10.



馬の背を抜けて、東山山腹の樹林の中へはいり、東山の頂上へ 頂上からは馬の背がよく見える 2015. 6. 10.

4. 横尾山 北の山裾を巡る散策路 横尾道 & 菖蒲の花が咲き出した須磨離宮



横尾山 北の山裾を巡る散策路 横尾道 2015. 6. 10.

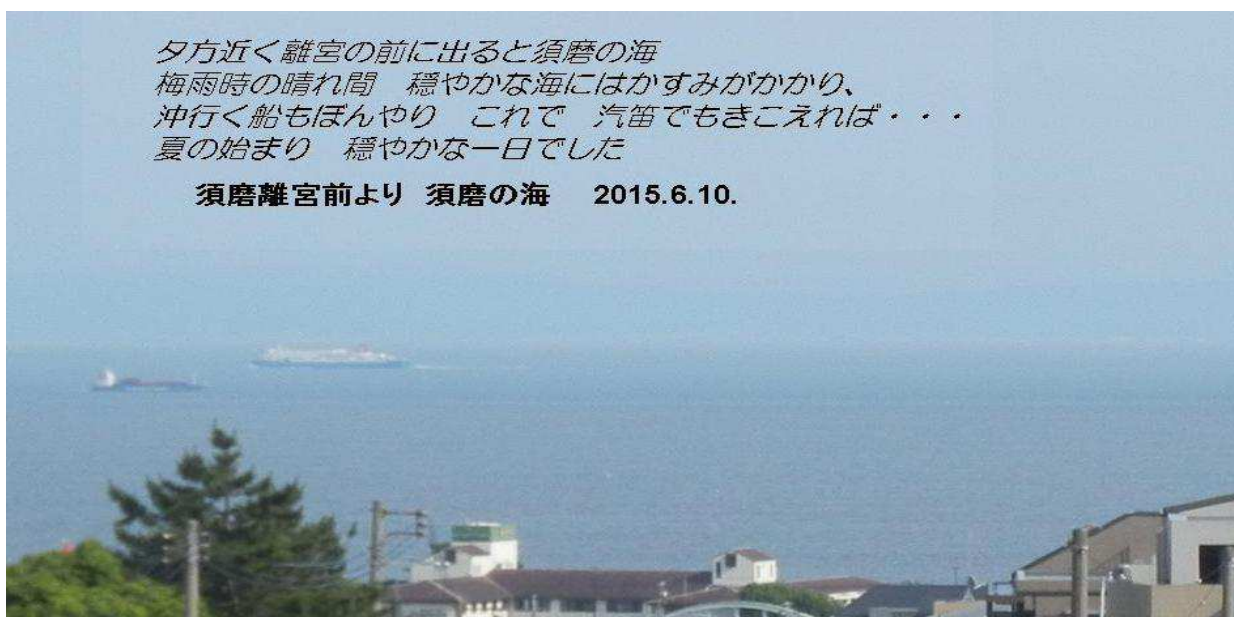


梅雨時を晴れ晴れとさせてくれるバラ・菖蒲・紫陽花

ゆったりと緑の中に咲く花を眺めると 梅雨も楽し 2015.6.10. 須磨離宮で

夕方近く離宮の前に出ると須磨の海
梅雨時の晴れ間 穏やかな海にはかすみがかかり、
沖行く船もぼんやり これで 汽笛でもきこえれば・・・
夏の始まり 穏やかな一日でした

須磨離宮前より 須磨の海 2015.6.10.



神戸 須磨 若草町から眺める須磨アルプス 馬の背

東山

六甲全山縦走路 西六甲

横尾山

須磨アルプス 馬ノ背

馬ノ背と直交する谷筋をつめ
妙法寺から須磨へ 馬ノ背を走り越える古い道がある

厳しい梯子階段の続く横尾山・馬の背の縦走路歩きを 敬遠してきましたが、久しぶりの馬の背 梅雨の合間 ゆっくりと楽しめました。ヤッパリ岩稜を歩くのは緊張しましたが、馬の背のど真ん中に立って気分爽快緑の中を歩くのとは違った楽しみ。久しぶりに ちょっぴりですが、アルペンの気分になれる、スカーツとした気分。妙法寺から、真っ直ぐ谷筋を詰めると横尾山の鞍部に短時間ででられる道が今も健在。馬の背歩きを短時間で楽しめることが判ったのでこの道も散歩の周回コースに加えられると。

2015.6.10. 馬の背の北側山裾を巡る横尾道に下って



《参考 和鉄の道 風来坊・Country Walk》

◆ 新緑の須磨アルプス 東山を楽しむ 2015.4.22.

<http://www.infokkna.com/ironroad/2015htm/walk12/1505sinryoku00.htm>